

佳作

部活を通して気づけたこと

山形県大石田町立大石田中学校

3年 榎本 陽咲

私は、将来、誰かに良い影響を与えられる生き方をしたいと思っています。そんな生き方をしたいと思わせてくれたのは、3年生になってからの部活動でした。

私は、1年生のとき、学年で、たった一人でソフトボール部に入部しました。ただでさえ人見知りなのに、一人で入部ということもあり、とても不安でした。そんな私にも、いつも優しく、かっこいい姿を見せてくれた先輩方のおかげで、どんなにつらいメニューの日でも乗り越えられました。この、先輩方と過ごした1年で、学年なんか関係なく、先輩方の仲間になれた気がします。

それから、先輩方が引退してから私は、3校合同チームのキャプテンになりました。キャプテンになると今までは考えもしなかったことをたくさん考えなければならぬのです。今までは、先輩方についていくだけで、自分のことさえできれば大丈夫という状態でしたが、キャプテンは、明確な指示を出したり、自分からチームを盛り上げたり、周りのチームメートにも目を向けなければなりません。そこでチームをまとめることの難しさを知りました。新人戦が終わり、2校合同チームに戻りました。新人戦が終わると、やがて2年の冬、つまり、最後の冬がやってきます。冬場は総体に向けて体をつくる期間です。週3回以上の校内10周走や、週2回の守備練習、週1回の地獄の筋トレなど、本当につらいメニューばかりでした。平日は5人で、自分の周り全員1年生で、どう盛り上げていったらいいのか、本当に悩みました。まず、強いチームにしていけるには、できていないこと、しなければならないことは、はっきりと言わなければならないと心に決め、それからの練習に取り組みました。

春になり、新1年生が入部するとガラリと雰囲気が変わりました。休憩の時間も、1年生が練習しているのを見て、私たちも負けてられないと思われ、さらに前向きに練習に取り組みました。練習試合では、ほとんど勝つことができず、本当に悔しい試合が続きました。それから、主に試合に出る2年生には「毎日の素振りは、しっかりしよう。」と声をかけました。練習でも2年生が1年生を引っばっている姿を見て、とても感動したのを覚えています。そして迎えた本番では、厳しい試合もありましたが、なんとか県大会に出場することができました。私は、そのとき、ゲームに勝った嬉しさよりも、あと1カ月、チームのみんなと部活ができるという安心の気持ちの方が強かった記憶がありま

す。その夜の祝勝会で顧問の先生から嬉しい言葉をもらいました。

「このチームは、あなたがキャプテンだから、ここまで成長できた。」と。

涙が出そうなくらい嬉しい言葉でした。その後も、1・2年生の保護者の方からも、「3年生とできるだけ長くしたいって言って頑張ってたっけよ。」とか「部活のために学校行ってるって言ってたっけよー。」とか「先輩が素振りしようって声かけてくれてから、毎日、真面目にやるようになったっけよ。」とかたくさん嬉しい言葉をもらいました。今までやってきたことが後輩たちに伝わっていたんだなと初めて感じた瞬間でした。それから県大会までの1カ月間、私は、後輩たちに何を残せるのか、今まで以上に考えました。それで、たどりついた答えは「かっこいい姿」でした。私自身、先輩のかっこいい姿を目標に、これまでやってきました。だから、私も誰かの目標になれるような先輩でいたい、先輩のかっこよさを受け継ぎたいと思いました。そのためには結果を出さなければならないと思い、家での自主練をさらに頑張りました。部活でも、周りの気づかいを大切にしました。迎えた県大会本番、私たちのチームは、負けてしまいました。勝負が決まった瞬間、涙が止まりませんでした。引退という寂しさと自分がチームに貢献できなかったという悔しさが混じった涙でした。

後日、私は部活の手伝いに行きました。そのとき、また顧問の先生から嬉しい話を聞きました。1年生の子が、私に憧れて、私が今までやっていたキャッチャーをやりたいと言ってくれたそうです。しかも「かっこいいから」と言っていたとも伝えてくれました。私も後輩に、こんなふうになりたいという、きっかけをつくってあげられたなら、こんなにも幸せなことは、ないなと思います。

今の私が、未来の私に伝えたいことは「誰かのために頑張れることは素敵なことだ」ということです。それを感じた今、私はこの気持ちを一生大切にしたいと思っています。